

20120625

2012年6月25日　日本テレビ 定例記者会見

《要旨》

1. 汐博 2012

恒例の夏のイベント「汐博 2012」を7月25日(水)から8月26日(日)まで33日間にわたり、汐留の日テレタワー及び周辺にて開催。「エヴァンゲリオン・綾波レイ スライダー」が登場するほか、日本テレビの人気番組と連動したブースやゲームを多数用意する。夏休みのお子様を含めご家族連れで、ぜひご来場頂きたい。

2. 視聴率動向と編成戦略

・視聴率動向

先週の視聴率は全日でトップ。年間視聴率、年度視聴率において引き続きトップ維持を目指す。

土曜ドラマ「三毛猫ホームズの推理」の最終回は13.8%、平均で12.8%。各局とも連続ドラマが際立った視聴率を獲得できなかった中で健闘した。水曜ドラマ「クレオパトラな女たち」は平均視聴率7.7%。残念ながらどちらも当初の期待をやや下回った。7月スタートのドラマは力を入れていきたい。

4月改編でバラエティーの新番組がやや期待に応えていない。10月の改編を見据えて、てこ入れすべき番組や企画はてこ入れし、変えるべきものは変える等、工夫していきたい。

・7月新ドラマ

7月新ドラマは2本とも女性が主人公。

水曜22時「トッカン 特別国税徴収官」は井上真央さん主演で7月4日スタート。井上さんは映画「八日目の蝉」で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞し、この作品は先週「金曜ロードSHOW!」で視聴率12.6%を獲得した。日本テレビのドラマでは初主演となり、税金滞納者から取り立てを行う国税局の職員として、仕事の壁や将来に悩みながら成長していく姿を描く。

土曜日21時「ゴーストママ捜査線～僕とママの不思議な100日～」は仲間由紀恵さんが主演。仲間さんの得意とするハートフルでファンタジーなコメディ。主人公は「連続ドラマ史上初の幽霊」で、弱虫な息子と力を合わせて事件

を解決しながら、その成長を見守り続けていくストーリー。

・ロンドンオリンピック

日本時間 7 月 28 日(土)に開会式が行われる。日本テレビ系列はまず 7 月 24 日(火)に事前番組を放送する。メインキャスター櫻井翔さん、キャプテン明石家さんまさん、スペシャルサポートー上田晋也さんの強力な MC 陣でお伝えする。また日本がメダルを期待できる競技を多く放送するほか、8 月 13 日(月)に総集編を放送する。

インターネットでのオリンピック競技の配信は、NHK が特任業務として総務省から認可を受けて行うが、民放も行う事を決めた。地上波、BS 等で放送しない競技を放送する事になる。ハイライト番組等も放送し、民放各局のオリンピック放送をリアルタイムでご覧頂けるよう視聴者の皆さまに关心を高めて頂く一環としたい。

・24 時間テレビ

8 月 25 日(土)、26 日(日)に「24 時間テレビ 35 愛は地球を救う」を放送するが、今年の 24 時間テレビ「チャリTシャツ」は、すでに記録的な枚数の販売となり、結果として募金にご協力して頂いている。お求めになる皆さまの要望に沿って、品切れしないようにしたい。

また 6 月 26 日(火)15 時 55 分から初めての試みとして、「24 時間テレビ」の制作記者会見を生中継する。メインパーソナリティーの嵐の皆さんをはじめ、チャリティーパーソナリティー新垣結衣さん、チャリティーランナーの佐々木健介さん、北斗晶さんや総合司会者が勢揃いして、皆さんに「24 時間テレビ」への意気込みを語って頂く。これまででは記者会見の内容を情報番組等でダイジェストとしてお伝えしてきたが、社会的に意義のある番組の趣旨や意気込みをきちんと全てお伝えできるよう生中継とした。

3. 営業状況と放送外収入

・営業状況

2012 年度第 1 四半期は前年比で約 112% の見込み。ネットタイムセールスは前年比約 105%、ローカルタイムセールスは前年比約 101% の見通し。スポットセールスの前年 4 月～6 月は震災の影響で落ち込みが大きかったため、反動分を含め前年比約 120%。第 1 四半期全体は底堅く推移したと見ている。

「24 時間テレビ」のセールスでは新しい協賛社も入って頂ける方向で、順調に推移。

7月以降は第1四半期と異なり、動きが全体に遅いと感じる。国内の政治動向、政局も不透明で、ヨーロッパの金融危機もギリシャの総選挙は乗り越えたが、スペインの金融危機等が必ずしも収まっているわけではなく全体として危機的な状況はまだ去っていない。国際経済情勢が日本の広告市況にも一部影響を及ぼしている形で、全体に先行きの見通しが立たない状況が続いている。

・映画事業

映画「ホタルノヒカリ」が6月9日(土)の公開以来、24日(日)までに96万8,900人にご覧頂き、興行収入は約12億円で好調。人気ドラマの映画化作品として、さらに伸びる事を期待している。

映画「名探偵コナン 11人目のストライカー」は4月14日(土)に公開以来72日間の興行成績は観客動員数272万人、興行収入32億円で、シリーズ16作品目として引き続き高いご支持を頂いている。

・ロンドンオリンピック 放映権

イギリス開催で時差があるため、競技のリアルタイム放送を少しご覧頂きにくい面はあるが、日本選手が活躍すれば視聴者の皆さまのオリンピックへの期待が高まり、結果的に視聴率にいい影響になると考える。

オリンピック放映権料が毎回高騰しているが、基本的な考え方として、テレビ放送局の使命として全ての番組で売り上げが整わなければ放送しないという事はない。赤字であってもその番組に対する視聴者の皆さまの期待が高い、あるいは公共性がある、等の点も考慮し、様々な要素を総合的に判断して決めている。

ただし、オリンピック放送権料の高騰が相当な重荷になっている事は日本の各放送局とも同様であると思う。今後の交渉においても、各局とも高騰は厳しいとの認識で、このまま高騰が続くようであればオリンピック放送に参加できなくなる可能性があると発言された局もあると聞いている。そのような考え方を持つ局が出てきても不思議ではないし、私たちもここまで放送を続けてきたが、さらに放送権料が高騰するようであればもう一度考えなければいけない。

4. その他

・番組テロップ等について

BPO放送倫理・番組向上機構で討議されている「緊急放送！芸能BANG離婚占い借金…ニュースの主役 VS 最強記者軍団」でのテロップ等の表現については、演出にしては過剰過ぎたと率直に思う。視聴者の皆さまから行き過ぎだとのご

意見を多数頂くようであれば、演出であったとしても良い結果につながってない事になり、番組としてはプラスになっていない。過剰に視聴者の皆さまの興味を煽るような行き過ぎた手法は、むしろ視聴者の皆さまの信頼を損なう事になりかねない。このため、こうした手法について見直すべく、BPOで討議して頂いたご意見を踏まえ、制作現場で議論が始まっている。今後の番組では改善されていくと考えている。

・節電

基本的に昨年の節電を続行中。昨年はスタジオ運用変更や一部エレベーターの運行停止等、相当の対策を講じたが、現段階で関東地方は昨年ほどの状況にはないため、今のところ事務棟の節電等、通常の節電を続けている。

なお、深夜のテレビ放送を休止してはどうかとの意見があるが、節電要請はピーク時の電力使用を控えるというもの。従って深夜の放送を休止しても節電の本来の目的と合致しない。また別な観点から見ると、震災等における緊急災害放送等の必要性を考えれば、深夜も放送を続けていく方が国民の皆さんに安心して頂けるのではないか、との意見もある。

・「もっとTV」アプリ

6月20日にスマートフォン・タブレット版「もっとTV」アプリをリリースした。民放キー局5社と電通で始めたVODサービス「もっとTV」をスマートフォンやタブレット端末でも利用できる。こうしたデバイスの拡大やアプリの普及によって利用が進む事を期待している。

・「JoinTV」の新しい展開

6月25日(月)から29日(金)まで「PON!」((月)～(金)10時25分～)にて「JoinTV」対応放送を実施。前回深夜番組「iCon」での試験放送での経験を元に本格始動する形となる。今回は新たな機能として、「PON!」を視聴しているFacebook上の「友達」の星占い情報がお互いに表示される。また番組内で紹介した情報をリモコンの青ボタンを押す事でFacebookに記録し「友達」と共有できる。

Facebook社との連携企画である「JoinTV」はリアルタイム視聴のみで体験できるサービスで、リアルタイム視聴を促進する意味でも今後大切にしていきたい。

また今回は、静岡第一テレビ、中京テレビの視聴者の皆さんも「JoinTV」をご利用頂ける。

(了)